

## 記念館開設決まる

2023年10月24日飯田の生家で開設式

佐藤健氏（飯田市長）、田中優子氏（法政大学元総長、名誉教授、北一明記念館準備会名誉会長）、金田晋氏（広島大学名誉教授）ら出席予定

この間北一明記念館準備会として準備を進めてきましたが、長野県飯田市の北の生家に記念館を開設することが決まりました。関係者の皆さんに8月末に「北一明記念館開設のご案内」をお送りしました。

以下ご案内の趣旨です。

（写真左は江戸時代の武家屋敷の面影を残す北の生家、同右は準備が進む、展示スペースの「離騒一宇」）



この間皆様から多大なご支援、ご協力を頂き、200万円を超えるご寄付等とボランティア活動へのご参加などのお蔭でこの度北一明記念館の開設に漕ぎつけることができました。小さな記念館ではありますが、北の業績を顕彰し、後世に遺すために、生家である飯田市江戸町の「離騒一宇」を改修し、膨大な作品、資料を整理、保存しております。

南信州の中心地飯田は文化と教養に溢れた街で美術博物館、柳田國男記念館、川本喜八郎人形美術館などがあり、春草通り周辺には菱田春草記念公園、柳田家の門跡、西尾実胸像などもあります。こうした文化の拠点の一角に北の記念館が更に新たな息吹を添えることができれば幸いです。

北一明（本名下平昭一）はかつてヒロシマ、ナガサキ、沖縄、南京、アウシュビッツ、そしてスリーマイル島等をテーマに、反核、平和を訴えた芸術家で日本はじめ、アンリ・ルフェーブル等世界各地の文化人、平和運動家などに賞賛

され、ノーベル平和賞にもノミネートされました。彼の作品は大英博物館、故宮博物院をはじめ国内外の著名な博物館や母校法政大学、出身地の飯田市にも収蔵されております。焼き物と書の遡源の地、中国の展示会でも高い評価を得るなど、日中交流にも貢献し、その後故郷の飯田市で 2012 年 10 月その生涯を終えました。

2021 年国連で核兵器禁止条約が成立し、同条約締約国会議が開催されるなど大きな前進がある一方、ウクライナを侵略したロシアが核兵器の使用を排除しないと公言しており、被爆国、日本国内でさえ核の共有が議論されるきわめて憂慮すべき状況が起こっています。広島でのサミットもありましたが、いまだに核抑止論を克服できずにいる今日、記念館開設は意義が大きいはずです。

北一明没後 11 年、ヒロシマ・ナガサキから 78 年、北が生前鳴らし続けた戦争と核兵器、原発に対する警鐘を思い起こし、後世に伝えていくことが私たちへの宿題であると考えています。

開設式の呼びかけ人は次の方です。(順不同)

田中 優子 (法政大学前総長)	金田 晋 (広島大学名誉教授、美学)
林 克行 (陶芸家。京都)	高橋 正志 (陶芸家。備前)
柳瀬 丈子 (「五行歌」同人)	平野 貞夫 (元参院議員)
増田 正人 (法政大学前常務理事)	宇野 斉 (法政大学社会学部長)
高柳 俊男 (法政大学国際文化学部教授)	今田 英明 (美術評論家)
高橋 敏 (法政大学社会学部同窓会前会長)	金 大偉 (映画監督)
田中 義教 (日中友好協会副会長)	唐澤 誠 (建築家)
能澤 壽彦 (宗教研究家)	御澤 徹 (写真家)